

課題管理実施報告書

報告日：2010年8月7日

プログラム	アジア科学技術の戦略的推進:アジア科学技術コミュニティ形成戦略
課題名	先端生命工学国際シンポジウム2010
実施日	2010年 7月23日(金) ~7月25日(日)
場所	Friendship Hotel Beijing, Beijing, China
形式	一般公開・ <u>シンポジウム</u> ・セミナー・講演会・ワークショップ・その他 展示物：有（機器・設備 パネル ビデオ上映 体験型 その他（ ） 無
対象者	一般 学生（大学） その他（ ）
来場者	人数：約280名（内訳 中国 約200名、日本 約50名、アジア他国約20名、その他10名）
周知方法	新聞 雑誌 学会誌 メディア取材 プレスリリース <u>HP</u> , メール発信 その他（ ）
実施者	○実施取り纏め者を記載 東京工業大学 梶原将(日本)、Tsinghua University Xin-Hui Xing (China)
内容	○実施内容を具体的に記載 東京工業大学生命理工学研究科は、21世紀初頭よりアジア地域を中心に生命工学分野の技術開発を先導すべく、中国・清華大学と大学院生の研究交流活動、合同大学院プログラム実施などによる研究交流推進、シンポジウム開催、共同研究推進などに取組み、最先端技術開発を通じた親密な学術交流を飛躍的に進展させた。この学術交流活動をアジア中心の世界規模なものに発展させるため、日中の他大学、韓国やアセアン諸国等のアジア地域や欧米の国々の研究者も交えた大規模な国際シンポジウムを開催し、人類の抱えている工業、資源、環境、エネルギー、健康、医療の世界規模の諸問題の解決を目指す最先端生命工学の学術交流する場を設定した。そして出席者間での国際的学術交流・共同研究を活性化させ、出席者を中心としたグローバルネットワークを構築するためのコンソーシアム設立のMOUを締結した。
効果、問題点、今後の展望と課題	○実施した効果を具体的に記載 生命工学分野のアジアの研究者が一堂に会し、それぞれの研究開発の最新状況を報告することで、アジアでの最先端の研究開発動向を参加者全員で共有化することができた。また、この機会に個々の研究者間での共同研究も多く計画され、当該分野の学術交流が飛躍的に進展した。さらに、アジアの他のバイオ系研究分野のグループの活動などを把握することができた。  ○ 実施上の問題点を具体的に記載 シンポジウムを開催するにあたり、かなりの資金（1千万円以上）が必要となり、当該プログラム資金のみならず、両大学、様々な団体から資金を集めるのに、多大な時間と労力がかかった。また、1日目の全体セッションでは予想以上に参加者が増えたため、一時期座席数が不足する状況となった。加えて今回の事業企画に時間がかかったこともあり、日本国内でのシンポジウム開

催の告知が大学のホームページ掲載のみであった。もしより広く告知できれば、日本からの参加者を増やすことができた可能性も考えられた。

○ 今後のコミュニティ形成に向けての展望と課題を具体的に記載

今回のシンポジウムにおいて、アジアの生命工学分野の50名近くの研究者間でアジア生命工学研究開発のコンソーシアム設立が締結され、今後アジアでの益々の連携強化、共同による学術推進が期待できる体制となった。また、これからも本コンソーシアムメンバーそれぞれが当該研究開発のネットワークをアジア全体に広げる努力を行い、コンソーシアム全体として、アジアが先導する生命工学研究開発を推し進めていく予定である。また、本シンポジウムの中に、アジアの他のバイオ系研究のグループとの連携、協力の依頼も幾つかあり、今後、それらグループとの連携も強化していく予定である。

一方、当該コンソーシアムの活発な活動を維持していくためには、定期的なシンポジウムやワークショップの開催が必要となる。コンソーシアムの規模が大きくなると、シンポジウム等の規模も大きくなり、それだけ開催資金が多く必要となる。したがって、今後シンポジウムを開催するにあたり、資金調達が一番の課題である。また、他国で開催するシンポジウム等の一般への周知も課題である。